

# 致死率 30%超「人食いバクテリア」感染症

## 患者数過去最多、流行止まらず

新型コロナウイルスが 5 類に移行し、行動制限が解除されたこの時期、さまざまな感染症が流行しています。昨年冬から今春にかけてインフルエンザが流行しました。子供たちの間では小児の風邪の RS ウイルスやプール熱、さらには A 群溶血性レンサ球菌（溶連菌）による咽頭炎も増加しています。

不気味なのは、まれな感染症ですが、劇症型溶血性レンサ球菌感染症（STSS）が昨年以降、急激に増加していることです。ネットニュースなどで「人食いバクテリア」と呼ばれている感染症です。

私は十数年前に 40 代のいところをこの感染症で亡くしています。発症してあっという間の出来事でした。

勤務先から帰宅したいところは体がしんどいと言い、夕食も食べずに寝ました。翌朝、咽頭痛と発熱、両足の痛みを訴え、仕事を休みました。夕方には意識が混濁し不穏状態となり、家族が心配して救急病院に連れて行きました。即入院で集中治療室（ICU）に入りました。

翌日、私に連絡があり、家族と一緒に人工呼吸器がほしいとこと面会しました。意識はありません。全身が腫れ上がり、両足は紫色に腫脹しています。尿はほとんど出ず、腎不全と肝不全に陥っており、予後は厳しいと説明を受けました。

STSS は突然発症する全身性溶連菌感染症で、急激に進行し、ショック（血圧が下がり、瀕死（ひんし）の状態になること）や多臓器不全に陥ります。致死率が 30～40%と予後不良の新興・再興感染症の一つです。新型コロナ感染症と同じ 5 類感染症で診断がつくと届け出が必要です。

1980 年代に北米で初めて報告され、90 年代初期に日本でも確認されています。以降、国内では毎年 200 人ほどの発症が確認されていました。近年患者数が急増し、2023 年の届け出数は 941 人で、今年半年で、過去最多の 1000 人を超えています。

日本だけでなく全世界で増加しており、世界的な発症率は10万人あたり3・5人で、致死率は30～60%です。

STSSは年齢に関係なく発症しますが、高齢者と新生児がかかりやすいといわれています。妊産婦がかかると、妊婦や胎児の死亡率は6割を超えます。健康な成人でも発症しますが、糖尿病、アルコール依存症、外傷、手術後などは危険因子です。

STSSを起こす溶連菌は、喉や鼻の粘膜やちょっとした手足の傷口から体内に入り、全身に広がるといわれています。ただ半数は感染源が不明です。

## ■急速に全身に広がり、ショック状態に

初期症状は悪寒と発熱、筋肉痛といったインフルエンザのような症状のこともあり、24時間以内に急速に全身に広がり、軟部組織の炎症と強い疼痛（とうつら）を生じ、ショック状態になります。

なぜ、学童期に多い風邪の一種の溶連菌が、まれにこのような重篤な感染症を起こすのでしょうか？ 詳細な原因は不明です。一部の溶連菌が持つ外毒素が感染した人の免疫を異常に活性化し、全身に非常に強い炎症反応を起こし、結果としてショックや多臓器不全が生じるといわれています。

治療は一分一秒を急ぎます。STSSの疑いがあれば救命処置をしながら、高用量で2種類の抗菌剤を投与、必要に応じ外科処置をします。

菌は飛沫（ひまつ）や接触で感染する可能性があり、予防には手指衛生やせきエチケット、傷口の衛生管理が大切です。